

介護・医療連携推進会議記録

開催日時	令和6年 3月 22日(金) 18時30分 ~ 19時30分	場所	株式会社グッドライフケア大阪 本社2階研修室
参加者	地域包括支援センター 職員3名、病院 職員2名、クリニック 職員1名 介護施設 職員3名、医療連携室 職員1名		
<p>○利用者推移の数値的データの紹介と考察</p> <p>○事例紹介</p> <p>○意見交換・質疑応答</p>			
<p>活動内容等の評価</p> <p>感染症対策のため『Zoom』を用いて本会場と併せて会議を実施</p> <p>Zoom参加者 外部 10名 職員3名(最大接続時)</p> <p>本会場参加者 外部 0名 職員12名 参加者合計25名</p> <p>・定期巡回 介護度別グラフ(令和5年6月~12月)、4区別利用者推移グラフ(令和5年6月~12月)</p> <p>・事例発表 独居で要介護1の方を在宅介護スタッフ(ケアマネ・看護・介護・デイサービス)で連携して支援。コロナでの入退院を経て現在も定期巡回・随時対応型訪問介護看護を継続利用。</p> <p>・意見交換・質疑応答</p>			
<p>内容</p> <p>○要介護度別の定期巡回利用者数の報告</p> <p>⇒要介護度が低いほど利用者数が多い傾向があり、これは短時間訪問が基本となる定期巡回の特性によるものと考えられる。</p> <p>○利用者推移の数値的データの紹介と考察</p> <p>⇒福島区での利用が多く、短時間複数回訪問を必要としているケースが多く、ニーズが高い</p> <p>○事例紹介</p> <p>⇒ご利用者の状況</p> <p>週一回訪問看護による服薬や体調管理で生活されていたが、脱水傾向による体調不良のため受診。また、徐々に一人での生活でゴミ出しなど困難な事が増加。ご自身は一人で生活できているという自信を持っておられたが、ご家族からの『見守りがある中で縛らずに生活させてあげたい』というご要望により、定期巡回・随時対応型訪問介護看護によるサポート体制で対応。</p> <p>ご自身の自尊心を尊重し、介護士と名乗らず短時間の訪問により脱水予防などの見守りを実施。また、デイサービスを並行利用したことで健康チェックが可能になり、生活リズム改善にもつながった。</p> <p>⇒デイサービスにて、歩行状態の悪化や認知症進行の報告があり、訪問回数を増回し、見守りを強化する中、新型コロナウイルス感染を介護士が発見し入院。退院後は後遺症なく、引き続き定期巡回・随時対応型訪問介護看護をご利用されながら、今もお一人での生活を継続されている。</p> <p>○意見交換・質疑応答</p> <p>・質問:毎日何度か訪問が必要な方に対しての、サービス体制はどうなっているか?</p> <p>⇒回答:決まった5~6名で対応している。まれに(休暇などで)代行者が入っていた。</p> <p>・質問:定期巡回ではサービス時間が短いですが、時間内にサービスを終えるための工夫は?</p> <p>⇒回答:事前にサービス内容をきちんと整理して把握すること。事例の方はお話し好きの方でしたので、サービス提供しながらお話し相手になったりなどして時間を意識してコミュニケーションし、信頼関係を大切にしました。</p> <p>・質問:買い物はできるが、金銭管理ができない方に対してどのような対応をしていたか?</p> <p>⇒回答:近くのスーパーでのみ電子決済使用ができるカードを、ご家族が用意くださった。</p> <p>・質問:サービス利用にかかる費用はどのくらい?</p> <p>⇒回答:サービスの基本となっている定期巡回の単位に加えて訪問看護・福祉用具・デイサービス利用がある事例。加算と減算の両方が発生したが、要介護1に対する単位内でやりくりした。</p> <p>・質問:通常の訪問介護サービスの方が安価なのは?</p> <p>⇒回答:ご本人様のご自身でできることが多いこと、『一人で生活できている』という自尊心を尊重することを優先に考えた場合、短時間で見守りが可能な定期巡回が適切だと判断した。</p>			
事業所名	グッドライフケア24大阪	記録作成者	令和6年 3月 22日 藤長 晃一

※原則として会議開催2か月以内にこの記録を作成・公表すること